

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2016年03月

制御システムから学ぶ安全
(③ 連続制御と不確実性)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038

福島県南相馬市原町区日の出町167-3

info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

「集中制御」から「分散制御」へ、そして・・・

今回の東日本大震災後の状況を見ていて、私は特に二つのことに強い印象を持ちました。第一は被災者の方々の忍耐強い冷静な行動であり、第二はあたふたと右往左往している**危機管理**ができていないリーダー不在の政府の醜態です。

(中略)

1948年の建国以来今日まで常時臨戦態勢にあるイスラエルにとって、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件に対する日本政府のもたつきは異様に映ったようです。

危機管理、危機管理と叫ぶばかりで実体が伴わない様を見て、ユダヤ人の友人は、日本に問われているのは**危機管理**(crisis management)ではなく、**管理危機**(management crisis)なのではないかと真剣に心配してくれました。

今回の東日本大震災に対する政府の後手後手の対応、特に福島原子力発電所事故に対する国際感覚に欠けた他人行儀的な対応振りを見ると、またユダヤ人の友人に「日本は**管理危機**だ」といわれてしまいそうです。

『感動的な「日本」の力』(馬淵睦夫)より

「時間」を省いた経済理論

経済理論を学んだ人の多くは、直感的になんともなく騙されているような感じを抱きます。しかし、そのように感じていると、理論が頭に入らなくなってしまうので、その思いを押し殺して経済学を覚えていきます。

そういったことが嫌いで、私は大学受験のときに経済学部を受けませんでした。高校で需要曲線と供給曲線を初めて習ったとき、その胡散臭さを直感的に悟っていたからです。

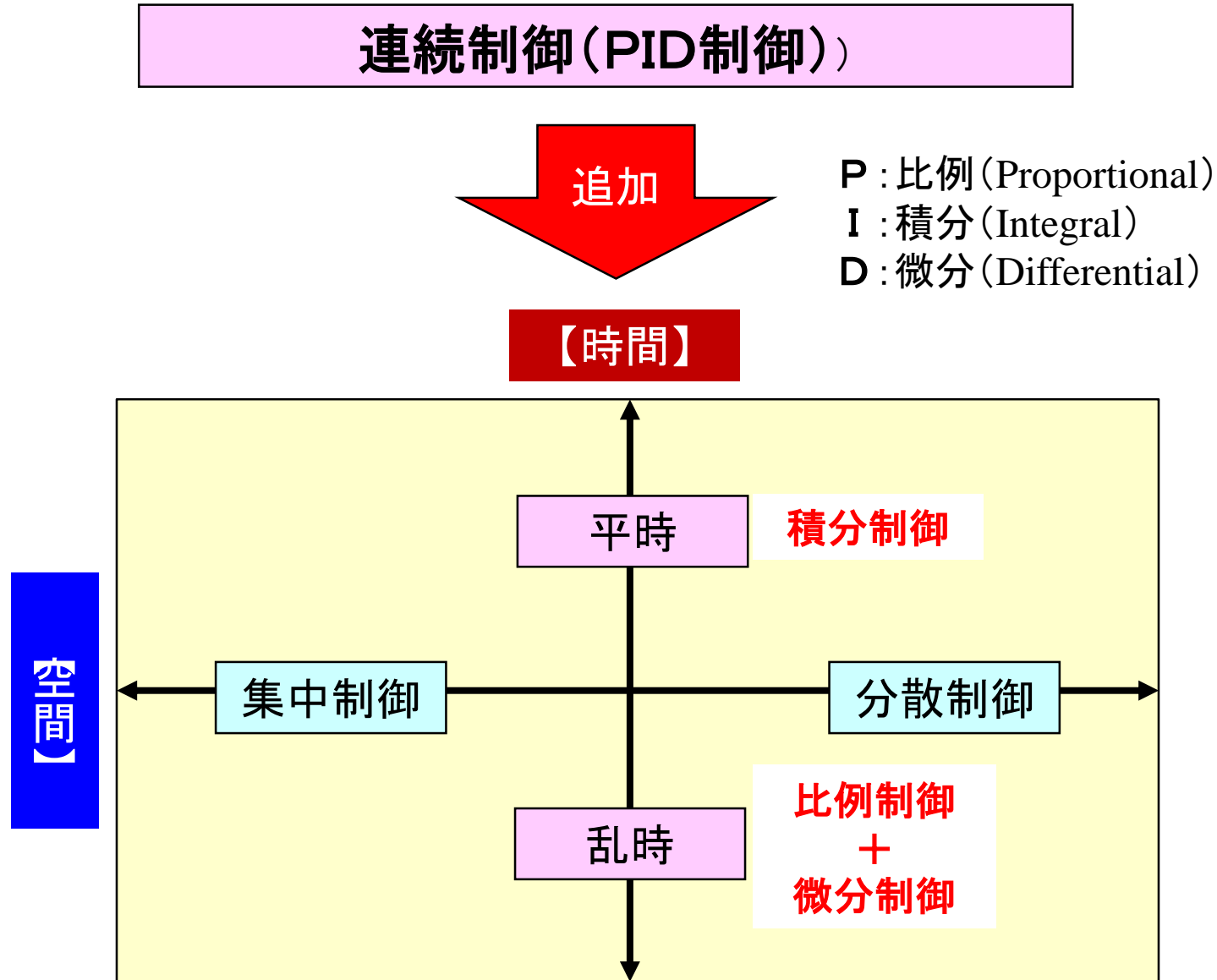
需要の流入速度と供給の流入速度が時間の流れもなしに一致することはありえない。無時間的な需給曲線は意味がないことを感じていました。

(中略)

経済学は経済的行為をする人間を真摯に研究し、過去の歴史をしっかりと学べば、まっとうな学問になるはずですが、経済学者の多くは、自分の研究する学問は非科学的だというコンプレックスを抱いています。そのコンプレックスを解消するために、複雑な数式を持ち込んでしまう傾向があるのですが、それが経済学をさらなる怪しい学問に仕立て上げてしまっています。

「シェール革命後の世界勢力図」(中原圭介)より

自動制御に「時間」の概念を加えると



「平時」における自動制御

【役割】

目標値(速度=50km/h)を維持する

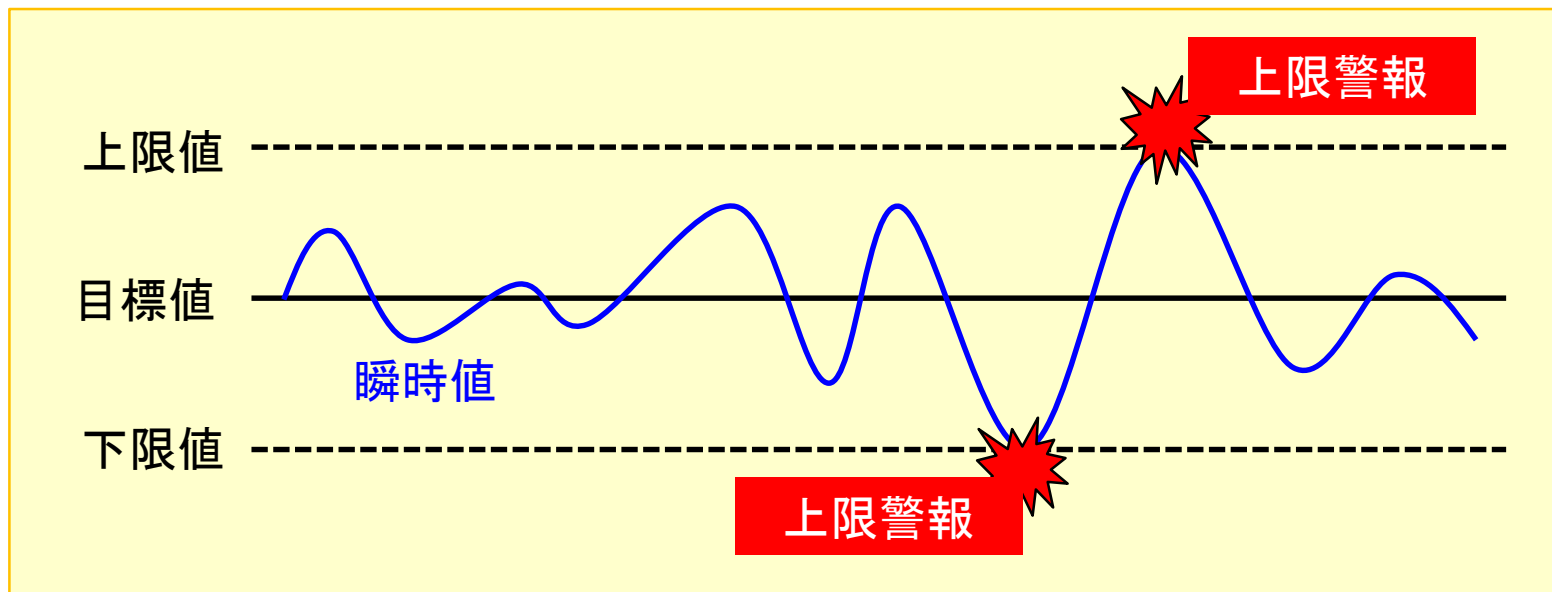
【目標管理】

積分制御: 1時間後に50km地点を通過する

【異常監視】

上限異常: 速度が70km/hで警報 → 減速調節

下限異常: 速度が30km/hで警報 → 加速調節



「乱時」における自動制御

【役割】

目標値の変更(速度を50から60km/hへ)を速やかに実現

【目標管理】

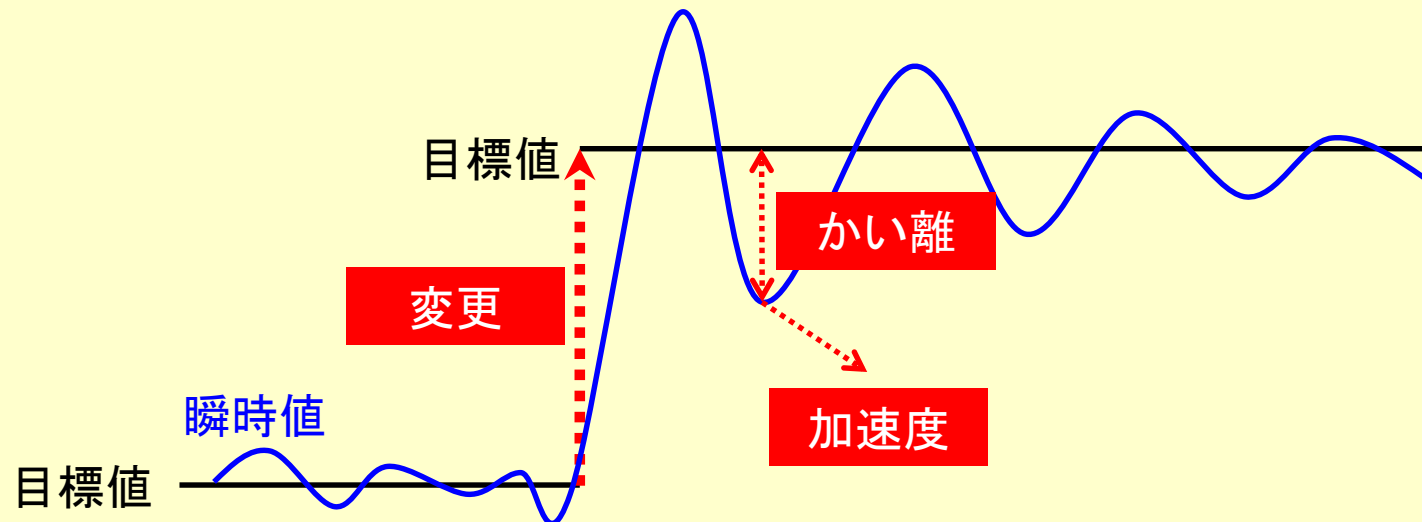
比例制御：目標値からのかい離が大きいほど、強く調節(アクセル)

微分制御：加速度が鈍い(ex.登り坂)ほど、強く調整(アクセル)

【異常監視】

変更はいつ？ → 人が決める(臨機応変)

目標値はいくら？ → 人が決める(やってみなければわからない)

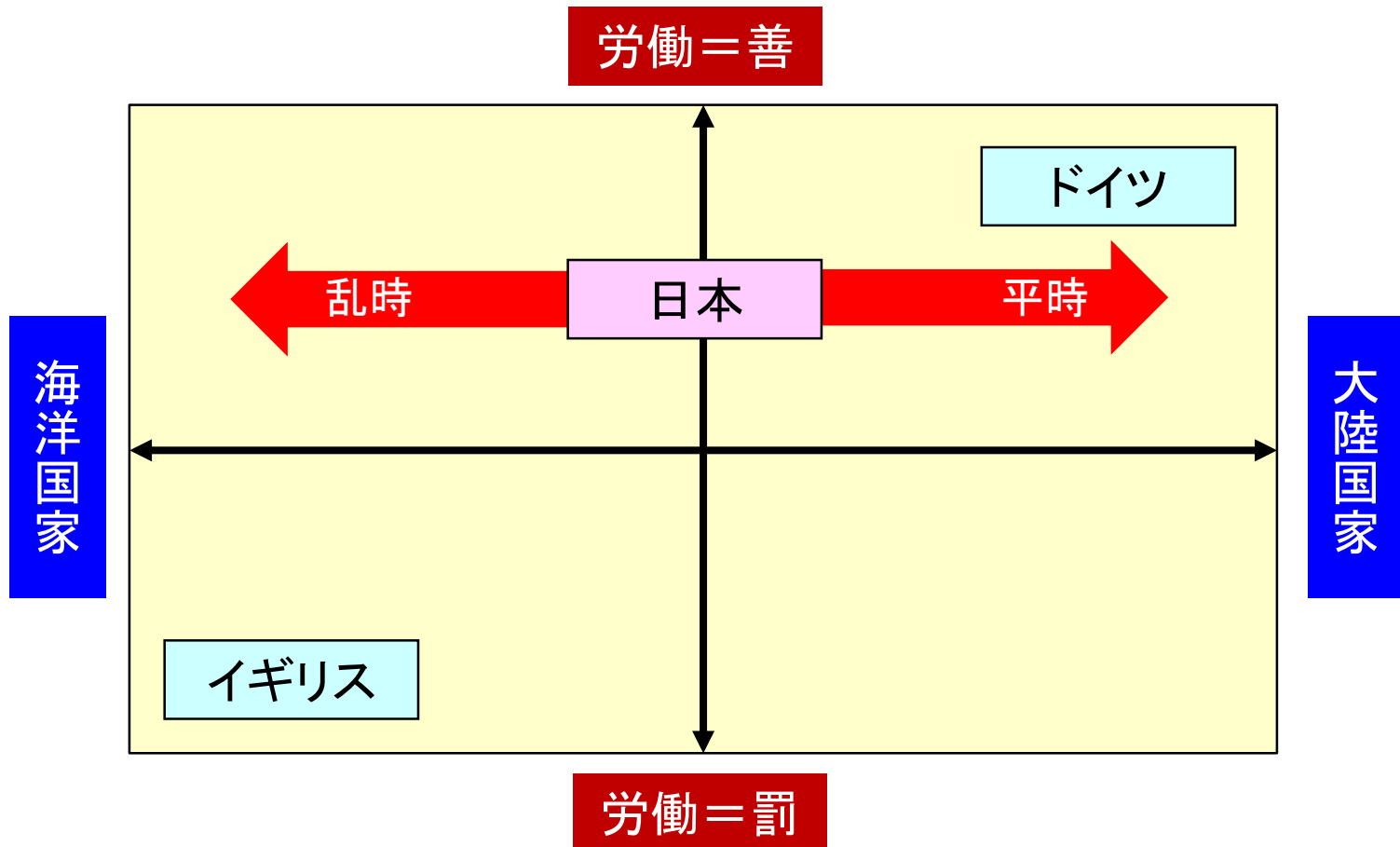


時をかける「選挙制度」

	政治の役割	政策決定	選挙制度
平時	<p>【役割】 成長するために、 目標を効率的に維持する</p> <p>【体制】 2大政党制(集中制御)で即決し、 2大政党制で上下限を監視</p>	多重性 (量的多さ)	小選挙区制
乱時	<p>【役割】 生き残るために、 新しい目標を決定する</p> <p>【体制】 多党制(分散制御)で試行し、 うまくいった目標を採用</p>	多様性 (質的多さ)	中選挙区制

時をかけて来た「日本」

- 海の国： 成り行きの → 乱時に強い
- 陸の国： 計画的 → 平時に強い



時をかける「FP」

実は私もファイナンシャル・プランナー(FP)の資格をもっています。試験があるので、保険も税金も不動産もひと通りは勉強した。でも、実際には、ほぼ金融のジャンルに特化した仕事をしています。

そんな人間が保険や不動産を語ることに意味があるのか？ 大いにあるのです。

例えば、この本で私は「住宅ローンは借りてはいけない」とか「生命保険はいちばん安い医療保険だけで十分」などの発言をしている。一般的なFPの感覚からすれば「暴論」に当たると思います。

FPは、消費税や年金などの現行制度が変わらないという前提で計算をし、それにもとづいてアドバイスします。20年後の給料はこれぐらいで、家族は何人になっているから出費はこれぐらいだよと。しかし、いまや勤め先の倒産や、給料の減額は珍しくない。現在の延長線上にライフプランを考えても、机上の空論にすぎません。

いま重要なのは、10年後20年後の日本経済はどうなっているか、制度はどう変わっているかと考えること。時代の先を読まずにアドバイスするのは不可能です。

「お金の神様」(中原圭介)より

時をかける「学校」

学校での勉強はすべて答えが決まっていて、解き方にも一定のパターンがある。この環境でいい成績を取っていても、答えがない状態に放り出された途端にパニックを起こしてしまう人は少なくない。

学校の成績が必ずしもお金持ちに結びつかないのは、こういった理由も大きいと考えられる。結局のところ、お金持ちになるために必要な能力というものは、複数の課題を同時に処理し、明確な答えがない状態でもある程度の見込みをつけて推論できる力、といったところだろうか。

だが残念ながら、この能力の有無を簡単に診断するためのテストのようなものは存在していない。

「競争力をつけるためには競争するしかない」という名言があるが、お金儲けの世界に飛び込んでみないと、最終的に脳力があるのかどうかはわからないのだ。先ほど名言を借りれば「お金を儲ける脳力を身につけるには、お金儲けをするしかない」のだ。

「お金持ちの教科書」(加谷圭一)より